



【基本施策の目的】

幅広い世代が自主的に文化芸術活動に取り組める環境を整えるとともに、小牧固有の歴史や文化、伝統にふれあう機会を充実します。

【基本施策の今後の優先度】





判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
	基本施策の指標値は、概ね横ばいの動きであるため、現状の取り組みを改善しつつ継続的に進めていく必要があるものとする。しかしながら、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、同一分野内における今後の経営資源の配分の優先度は普通と判断した。



【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
日頃から文化芸術に親しんでいる市民の割合	%	実績	49.9	45.3	47.8	55.2	52.4	文化芸術に親しんでいる市民の割合は、微減となっている。全体として男性の割合が低く、また、30代の割合が相対的に低くなっている。働く世代や子育て世代の取り込みが難しくなっている。	こまき市民文化財団と連携し、文化芸術に親しんでいる割合の低い層へのアプローチを検討する。親子で参加できる事業等を企画するとともに、さまざまなツールを活用し、幅広く情報を発信する。
		目指す方向性							
小牧の歴史・文化に興味・関心を持っている市民の割合	%	実績	63.1	60.5	60.0	57.7	53.8	市民意識調査の結果、10歳代・30歳代の方が小牧の歴史・文化への興味・関心が低いことが分かった。また、前年度調査と比較して、20歳代・40歳代を除く各世代で、興味・関心がないと答えた方の割合が増加した。平成25年の小牧山城築城450年事業終了以後、幅広い世代が小牧山を始めとする歴史に触れる機会が減少したことにより、実績値が減少したものとする。	歴史・文化に興味・関心を持つ割合の高い50歳代以上の方向けへの歴史講座等の開催等を引き続き行うとともに、10歳代・30歳代の方に興味・関心を持ってもらうための、親子対象の講座や事業を開催し、興味・関心の喚起を図ることにより、今後、割合は上昇するものとする。
		目指す方向性							

【施策推進事業の考え方】

<p>経常事業</p>	<p>削減に関する具体的な考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史館施設管理事業のうち、歴史館管理運営委託料の平成31年度予算見積書が指定管理者より提出された段階で、人件費や光熱水費等を除く自主事業等の内容の精査を行い、194千円の削減を行う。 ・市民会館施設管理事業のうち、市民会館管理運営委託料の平成31年度予算見積書が指定管理者より提出された段階で、人件費や光熱水費等を除く事業等の内容の精査を行い、1,007千円の削減を行う。
<p>実施計画事業</p>	<p>資源投入の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化事業開催委託料及びこまき市民文化財団助成事業については、平成29年に設立したこまき市民文化財団へ事業の委託及び文化財団の自主事業に対して補助を行うものである。文化財団の活動支援については、平成29年3月に策定した小牧市教育大綱及び小牧市教育振興基本計画にも位置づけられている。文化財団においては、自主財源の確保及び補助金等の活用など、自律的な運営を目指していく必要があるものの、設立から間もなく、今後、組織の体制、方向性等を確立していくためには、人的支援及び財政支援を含めた資源投入は増加する必要があると考えている。 ・史跡小牧山整備事業は、平成31年度以降、小牧山城主郭地区（歴史館周辺）の史跡整備に向けた既存建造物の撤去工事や実施設計、整備工事等を予定している。史跡小牧山の整備を行っていくことにより、小牧固有の歴史・文化遺産の保全・活用に繋がっていくものと考えため、資源投入は増加する必要があると考える。 ・史跡センター施設管理事業は、小牧山の南東麓に建設を進めている（仮称）史跡センターの施設運営に係る経費である。（仮称）史跡センターは小牧山の自然や歴史を紹介するガイダンス施設であり、基本施策の目的である、「小牧固有の歴史に触れる機会」を提供するための施設であることから、資源投入の必要性は大きいものとする。

展開方向1	名称	市民が文化芸術に親しめる機会を充実します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	〇市民の文化芸術への関心を高めます。								
	所管課	生涯学習課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度			
市主催の文化芸術イベントへの来場者数	人	実績	32,331	33,357	39,690	37,077	28,251	小牧山薪能が雨天により、市民会館開催となったため来場者数の減となった。各イベントにおいて比較的高い年齢層の参加が多いため、若い世代の取り込みが課題である。	こまき市民文化財団とともに魅力ある事業の実施に向けて連携協力する。また、こまき市民文化財団の事業を幅広く、わかりやすく周知するため、市広報への記載方法を検討する。	
		目指す方向性								
来場者の満足度	%	実績	96.2 (H24年度)	95.5	97.1	97.5	99.0	来場者からは、非常に高い満足度を得ている。今後も来場者、市民目線での改善を積み重ねていく中で、評価を維持していく必要がある。	来場者からは、高い満足度を得ているものの、ご来場いただけない層のニーズを分析する必要がある。普段コンサート等へ足を運ぶことが出来ない方へのアプローチ等をこまき市民文化財団とともに検討する。	
		目指す方向性								
展開方向2	名称	団体の自主的な文化芸術活動を支援します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	〇子どもから高齢者まで幅広い世代の市民による主体的な文化芸術活動を促進します。								
	所管課	生涯学習課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度			
支援を行った文化芸術団体の事業参加者数	人	実績	35,804	37,603	44,102	47,509	64,760	美術鑑賞共催事業において、メナード美術館で例年より多い4つの企画展を行い、参加者数が増加したため。	こまき市民文化財団による文化団体等との連携事業に対して、教育委員会においても後援等を行い、積極的に支援を行う。	
		目指す方向性								
子どもまたは親子で参加する文化体験教室などの参加者数	人	実績	300	509	546	806	718	こまき市民文化財団によりさまざまな子ども向けまたは親子で参加できる事業を実施したが、微減となった。事業の内容等によっても規模が異なるため増減はするが、引き続き、子どもへの文化体験の場を提供していく。	こまき市民文化財団が主体となって子どもの頃から文化にふれる機会を提供していく。また、文化協会等と連携し、伝統文化や生活文化を子どもたちに伝えていく事業を実施する。	
		目指す方向性								

名称		小牧固有の歴史・文化遺産を保全・活用します							
展開方向3		目的 ○市民共有の財産である小牧固有の歴史・文化遺産を将来にわたって継承します。							
所管課		生涯学習課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見直し(予測)、事務事業等の見直し内容
指定文化財の数	件	実績	40	40	41	41	41	新規に指定する文化財がなかったため、前年度と同数になった。	小牧市文化財保護審議会において、文化財の指定に向けた調査を行っているところであり、微増及び同数で推移するものとする。引き続き、貴重な文化財が発見されれば、指定に向けて手続きを進めていく。
		目指す方向性							
小牧市のシンボルが小牧山と思う市民の割合	%	実績	87.5	79.6	89.2	87.9	88.7	市民意識調査の結果から、居住年数が「生まれた時からずっと」「転入後5年以上」の方の小牧市のシンボルが小牧山だと思う割合が、前年度と比較して増加した。一方、「転入後5年未満」の方の割合は低下している。平成25年の小牧山城築城450年記念事業により多くの市民に小牧山の価値や魅力の情報が伝わったが、その後の転入者には小牧山に触れる機会が減少したことにより、5年未満の転入者の割合が低下しているものとする。	小牧山の南東麓に建設を進めている(仮称)史跡センターを利活用し、引き続き小牧山の歴史的価値や魅力について周知を図っていく。
		目指す方向性							
歴史・文化講座の参加者数	人	実績	3,226 (H25年度)	2,687	2,645	2,715	1,991	講座内容の見直しを行った結果、開催回数を計25回から計19回に縮小したことによる参加者数の減少。	引き続き、市民が市内の文化財や歴史について関心や親しみを持てるように、小牧市の歴史等に関する講座等を開催する。特に、小中学生など若年層を対象とした講座を開催し、郷土愛の醸成を図る。
		目指す方向性	